

## (2) 夫婦漫才(ジェンダー漫才)から感じたこと

夫婦漫才の「21世紀は男女共同参画時代」と題されたキーワードは「しなやか」。笑いの中にも、今何をなすべきかを演じてくださいました。



### 女性の社会進出をもっと推し進めよう

社会通念で今日まで来た日本の体質(女性は男性に従うことが美德)。それを逆手に取り、一部の心無い男性により、女性の意見を頭ごなしに拒絶することもあたりまえと考える男性、女性側も男女平等で法律も変わったのだからと、自由とわがままをはき違え、自由なのだからと家庭のこと、地域のこと、子どもを放任したり、意見を言えば欠点を追求するのみ、これでは男性も女性も心豊かに生きていくことはできません。より良い社会づくりのために、男女で協力し、相互に理解し、少しでも良い時代を、次代を担う子や孫のためにも残していくことが先に生きる者としてなすべきことではないでしょうか。



### 習わしや制度を見直して古い習慣を改めよう

20世紀、男性優位の社会があたりまえのことでした。敗戦後57年、私たちは動乱と貧困の時を、生き馬の目を抜くといわれるくらいきつく厳しい時代を駆け抜けてきたのです。今、テレビ、新聞で報道されているアフガニスタンなどの戦火の絶えないあの姿は、かつての57年前の日本の国、日本人の姿そのものではないでしょうか。市民一人ひとりが本来の学びをやめ、世の中に流されていくのなら決して住み良い世の中になりません。

市、県、国が何を考え、何を望んで私たちに伝え、一人ひとりが何をすべきか、互いに学び成長し、微力でも男女共同参画社会実現に向けてがんばることが必要ではないでしょうか。



### 役割分担の固定の見直し、男女が力を合わせて家事や育児に取り組もう(かたよった収入をあらためよう)

収入を得ることは、この社会で生きるためには必要です。雇われる方も雇う方も、相互理解が必要です。仕事をしているのだから給料はあたりまえとか、給料をやっているのだからとか、互いに感謝がない関係としたら、マイナス思考で会社の発展はないと思います。

会社においても従来どおり、年功序列で男性だけを役職につけたり、女性はお茶くみでよいとか。その人の価値を見抜くことさえしないとしたら、本当にかたよっています。会社にとっても発展が望まれません。男女の差別を無くし、正しい価値判断で適正な給与を支払うことが、会社の繁栄につながると思います。



### 会社や家庭の暴力・セクハラを根絶しよう

夫による暴力、妻による暴力、子どもによる暴力、このようなことは、家庭内のできごととされてきましたが家庭も崩壊し、人間そのものをも崩壊させます。そして、その家族につながる縁故者にまで暗い影を落とします。悩みのない人間、完全な人間などいないのです。暴力の前に最善の方法を取るべきです。相談したり、理性的に解決するよう、日々、学ぶことが必要です。

☆ 女性差別根絶へ役立つ漫才を目指している心意気が伝わるお二人のステージでした。

## (3) フェスティバルに参画して

都留市においては、男女共同参画社会実現のための推進運動の枠組は出来上がっています。

- ・ 男女共同参画社会基本法の制定(国)〈平成11年6月〉
- ・ 都留市男女共同参画基本条例の制定〈平成12年3月〉
- ・ 男女共同参画都市宣言〈平成13年3月〉
- ・ 男女共同参画都市宣言記念モニュメントの作製
- ・ 都留市男女共同参画推進フェスティバルの開催(平成13年度で5回目)

しかし、これからが正念場です。いかにして一部の関係者、参加者だけでなく市民レベルの推進運動に展開するのが重要課題であります。今回感じたのは、全市民的な運動をいかに進めていくのか。

地域にある組織・職場・学校・家庭・PTA・育成会・交通安全協会・体育振興会・協働のまちづくり推進会・公民館活動・自治会活動・生涯学習活動・講演会などあらゆるネットワークを活用し、連携を強化し幅広く市民にアピールすることが必要であります。人づくり・まちづくりの中から意識改革が進むことが重要であります。条例を制定したからといって、急に男女共同参画社会が実現するとは思いません。市民がいろいろな立場で、いろいろの機会に議論を重ねる中から建前でない本音の平等意識が地域に根づいてくると思います。

地域の中で、個のスタート………自分を語り、家族を語り、地域を語り、自分の足元からいろいろな場面でアピールする必要があると思います。